



栄光園だより
第127号
2022年4月30日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
http://www.eikoen.jp/
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

福祉ニーズの源流を考える

理事長 江口 敏一



ロシアによる衝撃的なウクライナ侵攻は冷戦後の世界秩序を根底から揺さぶっています。戦車の列、砲撃で崩れた民家、無数の難民、泣き叫ぶ子どもたち。今日の現実ですが、80年前の世界大戦の時代に逆戻りしたような錯覚に襲われます。

あの当時、国中が貧困に陥り、戦災孤児が多数巷にあふれ、傷痍軍人が帰国してまいりました。この対処のために「生活保護法」「児童福祉法」「身体障害者福祉法」の福祉三法が成立し、その実施を支援するための「社会福祉事業法」が戦後の6年間に矢継ぎ早に成立しました。今日、ロシアのウクライナ侵攻から過去の朝鮮戦争を連想させられますが、隣国の不幸の中で日本は経済成長し、その成果をもとに「身体障害者福祉法」「母子及び父子並びに寡婦福祉法」「老人福祉法」の福祉六法が成立したのです。

戦後の私たちの生活を支えてきた基

本理念を「日本国憲法」と考えれば、ただ単に外国と戦争しない平和な社会を目指してきただけなのか。世界平和を主導するには力不足であった。否、それ以上にアメリカの庇護のもと、経済成長に奔走しているだけであったのかもしれない。生き方の基本理念に、中国の古典に記されているような、修身齊家治國平天下(身を修め・家庭がととのい・国が治められ・世界が平和になる)が求められなかったのかもしれない。この80年、目指すべき生き方・目指すべき家庭形成の在り方・目指すべき社会形成の在り方の議論がされてこなかったのです。すべてが成り行き任せの対処療法に終始せざるをえませんでした。この分野は、教育が担うべきものという考えもありませんが、教育と養育の必要を説いた児童養護施設の祖、石井十次に学ぶこともなく今日に至っております。

個人の成長は、育てる親とその家庭環

境が最も大切だと考えております。幼少の頃の子育てはとても大変だと思いますが、そこでの取り組む姿勢が人格形成と人生を、そして人間社会の平和を築く基だと考えます。

アメリカのミネソタでの経験ですが、イタスカ湖に端を発する世界三大河川の一つミシシッピ川は下流で川幅15000mにもなりますが、その源流は幅10m程度の飛び石で歩いて渡ることも可能でした。いま、施設にて養育の問題で苦悩するとき、子どもの幼少時、もつと遡ると妊産婦の支援、いや男女の家庭形成の時の教育こそ、最も効率的な方法で支援に力を入れることのできる必須の分野ではないかと思っております。

このことに考えを巡らしていると、児童養育の専門性を高める目標の一つは、子どもが施設を利用しなくても済むような家庭形成のモデルを社会に提示することではないかという思いに至ります。

す。「法人立ファミリーホーム」の取り組みの挑戦も子育て家庭や里親家庭の取り組みに資すると考えております。

戦後の福祉三法を支える「社会福祉事業法」は、特定の人の支援を前提にしていました。その対象が団塊の世代の高齢者のように国民すべてが対象になる福祉へと考えを改めざるをえず、「介護保険法」が必要になり、国民を対象とした地域福祉を中心とする「社会福祉法」へと変遷してまいりました。これからの社会を担う子どもたち、障害のある方たちすべてを含めた幸せな福祉社会形成の取り組みは国民対象でなければなりません。栄光園の乳児院も措置児だけではなく、地域の子育て支援の核となるべく、「乳幼児総合支援センター 栄光園」として脱皮してまいります。皆様のご理解・ご支援・ご期待を乞い願います。

栄光園3つの宝

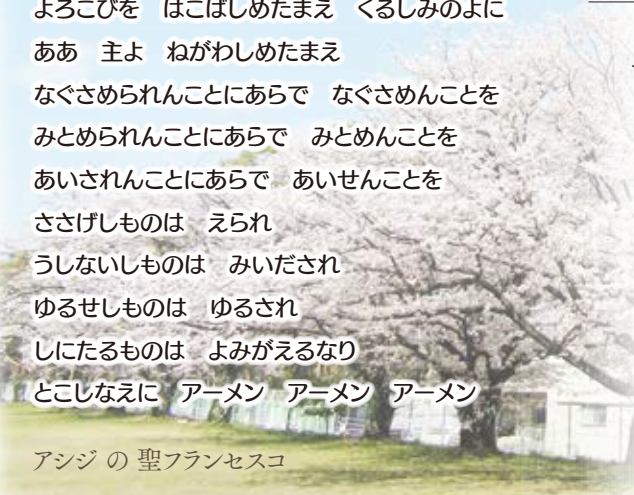
子ども・家庭・神さま



平和の祈り

おお 主よ われをながうつわとなし
 あいを おこなわせたまえ にくしみのよに
 ゆるしを おこなわせたまえ はずかしめのよに
 ひとつに むすばしめたまえ あらそいのよに
 のぞみを よびさましたまえ うたがいのよに
 ひかりを ともしたまえ くらやみのよに
 よろこびを はこばしめたまえ くるしみのよに
 ああ 主よ ねがわしめたまえ
 なぐさめられんことにあらで なぐさめんことを
 みとめられんことにあらで みとめんことを
 あいされんことにあらで あいせんことを
 ささげしものは えられ
 うしないしものは みいだされ
 ゆるせしものは ゆるされ
 しにたるものは よみがえるなり
 とこしなえに アーメン アーメン アーメン

アシジの 聖フランセスコ



施設長就任あいさつ

2022年度は乳児院の施設長が変わりました。ご紹介します。



乳児院
施設長

安西 恵子

栄光園のグラウンドでは、桜が満開になりました。乳児院の子どもたちは桜の木の下で、ニコニコ笑いながら、小さな手から今にもこぼれ落ちそうなおにぎりを頬張り花見を楽しんでいます。30年前の4月に私は入職し、この光景と子どもたちの笑顔がいつまでも見られることを願いながら、今この時を迎えています。

このたび、乳児院の施設長を拝命いたしました。今回、このような役職を仰せつかりまして、責任の重大さに身の引き締まる思いです。

大分県では唯一の乳児院です。大分県で認められ、九州や全国に認められるような施設作りを目指します。

2016年に児童福祉法の改正があり、2017年8月「新しい社会的養育ビジョン」が提示されました。全国乳児院協議会では、「乳幼児総合支援センター」としての乳児院の機能転換、高機能化、多機能化が求められています。乳児院栄光園でも変革の時期が来ています。これからの乳児院は地域福祉の核となり支援を充実させる役目を担うようにならなければなりません。その先駆けとして、今年度は、大分県から「里親フォスターリングチェーンプログラム」の事業を委託されました。

今後の新たな取り組みとして、産前産後母子支援を行い、在宅での母子支援の充実を図ります。その他、家庭訪問時の家事・

育児支援、父親・父子支援、ショートステイの送迎など、様々な地域に必要な支援を開始します。乳児院内では、子ども一人ひとりに合わせた養育を行う養育面の強化、医療機関や発達医療機関との連携を図る看護面の強化、摂食指導や食育を充実させた食事面の強化等を行い、子どもにとって適切な養育と安心感を育み、特定の保育者との関係にて愛着形成を築き、家庭的な思いやりのある乳児院を目指します。

職員には、それぞれの強みを活かせるように一人ひとりに合った役割を持つことで、モチベーションを上げ、やりがいのある職場作りを目指します。

栄光園は、70年の歴史ある施設です。伝統あるこの乳児院栄光園を絶やすことなく伝統を守り、しっかりと前任者より引き継いで参ります。まだまだ若輩者ですが、今の私では力が及ばない部分もあると思いますが、努力を惜しまず精進していく覚悟です。微力ながら、乳児院栄光園のため、子どもたちのため、地域のために力を尽くしていきますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新任者あいさつ

社会福祉法人栄光園ではこの春5人の新しい職員を迎えました。ごあいさつを掲載いたします。



児童養護施設
児童指導員
生田 あかり

4月から栄光園で児童指導員をさせていただいている生田あかりです。

大学4年間で得た知識を実践に活かせるように頑張りたいと思います。一日でも

早く仕事を覚え、子どもたちが安心して楽しく過ごすことができる環境づくりをしていきたいと思っています。私の長所であるポジティブな性格を生かして、何事にも積極的に挑戦し、明るく雰囲気の仕事をしたいと思っています。私の明るさが自然と子どもたちにも伝わり、笑顔あふれる生活を目指します。子どもたちに教えるだけでなく、子どもたちから学ぶこともたくさんあると思います。子どもたちの成長を見守ると同時に、私自身も共に成長することができたらと思います。時には子どもたちとぶつかることもあると思いますが、一人ひとりと向き合い、子どもたちとの信頼関係を築くことができるように努めます。

福岡県から引越してきて、初めての一人暮らし、初めての県での生活でまだ慣れていないことがたくさんありますが一生懸命頑張ります。至らない点も多々あるかと存じますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



乳児院
保育士

竹之内 菜々未

私の長所は、誰とでも気軽に話すことができるということです。

私は、友人が一人もいない状態で県外の保育科の短期大学に進学しました。コロナという期間だったので授業のほとんどがオンラインでの授業でした。学校での授業が再開された時に初めて会う人が多くとても緊張しましたが、多くの友人と話すごうができました。そして、実習中もたくさんの子どものたちと関わることを心掛けました。そして関わっていく中、子ども一人ひとりに別々の考えや、違う遊びに興味を持っていることなど多くのことを学びました。そして、その中でもたくさん関わったり、コミュニケーション

を取ることで一人ひとりの考えやしたいことを感じ取ることができました。まだ乳児院の子どもたちのことが分からない状態です。これから子どもたちとたくさんコミュニケーションを取ったり、職員の方とも連携をしっかりと、助言などをしっかりと受け止めて子どもたちが安心して過ごせる環境を作っていきたくと思っています。そして、大学で学んだことを振り返りながら多くの知識を学んでいきたいです。



乳児院
保育士

宮田 奈美

別府溝部学園短期大学幼児教育学科を3月に卒業して、今年度から乳児院で働くことになりました。宮田奈美と申します。

私の強みは忍耐力です。私は、小学校の頃から高校までずっと陸上をしており、その経験から努力をすれば必ず報われると思いました。小学校の頃から長距離をしており、忍耐力はとても鍛えられたと思います。タイムの短縮や記録の更新など自分自身の限界を常に超えて、高い目標を掲げ、日々の練習によって結果を残せるように目標を掲げ練習に励んできました。日々、チームメイトや他校の学生と競い戦ってきました。毎日のように練習に励んできたからこそ、県大会にも出場することができ、その中でもベスト10に入ることができました。苦しく体力の限界を感じる場面でもあと一歩踏み出せる忍耐力を鍛え上げました。乳児院に就職後も持ち前の忍耐力を活かし、目標達成に向けて頑張っていきたいです。

今後に向けての抱負は、子どもの気持ちに寄り添い、一人ひとりの個性を大切に、少しずつではありますが、わからない時は先輩の職員の方に沢山聞いたり、わから

ないまま仕事を進めていかなないように自分がわかるまで質問し、自分らしく笑顔で明るく成長していきたいです。子どもを成長させるのではなく、私も一緒に成長できるように頑張っていきたいです。子どもたちの成長を見守りながら、様々な経験を通して、自分自身も素敵な保育士になれるよう成長していきたいと思っています。子どもたちの笑顔が沢山みられるよう一杯頑張ります。わからないことばかりですがよろしくお祈りします。



青山保育所
栄養士
麻生 瑠希

私は、小学生の頃、栄養士という職を知りました。私自身食べることや料理をすることが大好きで自分の好きなことで誰かを幸せな気持ちにできたらなと思うようになりました。子どもが好きなこともあり、子どもたちが楽しみにしてくれるような食事を提供したいと考え、保育園で働く栄養士を志すようになりました。

子どもたちのエネルギーとなるおいしい給食を作って、幼少期の子どもの健康な身体づくりを支え、元気に笑顔で遊ぶよう力添えしたいと思っています。

子どもには、それぞれ好き嫌いがあったり、小食だったりという個性があります。苦手な食材も「頑張つて食べてみよう」と思えるようなメニューを考案したり、子どもが食事に興味を持てるような食育を実施したりして子どもの育ちに貢献したいです。子どもたちの嫌いなものをなくすのではなく、好きなものを増やしていけたらいいなと思います。

子どもたちの身体づくりとなる大切な食事に携われることに感謝し、おいしい食事を提供したいと思っています。



野口保育所
栄養士
河野 早紀

私は、これまで保育園の栄養士として、子どもたちが食べることに興味や関心を持ち、楽しいものとなるように、献立作成や体験の機会を設ける等の取り組みを行ってきました。年間を通して食育を行う中で、子どもが自ら意欲を持って食に関わったり、苦手な食材にも挑戦しようとする姿や喜ぶ姿、笑顔が私のやる気に繋がっていました。

今後の抱負としては、障害のある子どもの咀嚼や嚥下の摂食機能の状態に対する配慮や、発達障害における偏食等の食への困りに対する援助を栄光園で学び、実践していきたいです。また、一人ひとりの置かれている状況や発達過程を把握しながら、子どもたちの欲求を受け止め、信頼関係を築いていけるように、丁寧な関わりを心掛けていこうと思います。

子どもたちに毎日「美味しい」と言ってもらえるような安心・安全に配慮した給食提供を行っていきたいです。



児童養護施設

総主任 藤内 貴章

子どもたち自身で 自己決定を!!

児童養護施設では、昨年度末に4名の子どもたちが新しい環境へ巣立っていききました。そして、新たに3名の子どもたちと1名の新任職員を迎え入所児童29名、職員39名で今年度の生活をスタートしています。小・中学校、高校に入学した児童。措置延長制度を利用し上級学校に進学した児童。節目を迎えたそれぞれの門出に立ち合うことができ、嬉しさと共に身の引き締まる思いがしています。

近年、当施設では発達障がいを抱える児童が多く、約半数の児童が小児精神科や精神科に通院し服薬しながら生活を送っている状況にあります。子どもたちが安心・安全、主体的に過ごすことが出来るよう環境を整えたり、関係機関と連携を図り、サポートを行ったりと職員にもより一層の専門性が求められています。難しい課題ではありますが、今更以上子どもたち自身の思いや考えを大切に、自己決定が行っている仕組みを整えていきたいと考えています。

結びに代えて先日嬉しい報告もありました。卒園生の一人が念願だった理学療法士の国家試験に合格。今春よりリハビリを専門とした病院での仕事に就くことができた。

私たち職員にとって入所している子どもたちや卒園生が成長していく姿が何よりの励みとなります。子どもたちとの関わりを通して自分たちも前向きに成長していけるチームでありたいと願っています。



ノマチホーム

保育士 帆秋 聖太

それぞれの夢に向けて 今できる支援を考える

昨年度ノマチホームには2人の高校生3年生がいました。一人は就職、もう一人は措置延長を行い進学という道を選びました。就職をする児童は、10月には内定が決まりました。就職先を選ぶ時も担当職員を中心にその児童が仕事を続けていくことが出来るような就職先を一緒に考え決めていきました。

進学を希望する児童は、ぎりぎりまで国立大学を目指し勉強に励みました。高校3年間は部活に入っており、スポーツと勉強を両立し、頑張っていました。部活を引退してからは、塾に週3回通い、塾がない日は、居室で1日のほとんどの時間を勉強に注いでいました。しかし、希望する大学への進学はかきません。その結果を受け止め、次の日からは、専門学校に行くため、担当職員と一緒に手続きを行い進学に対して前向きに気持ちを切り替えています。進学にかかる費用や措置延長になってからの生活の約束について話し合いを重ねてきました。その中で、卒園をしてから必要な知識として生活面では、洗濯、調理体

乳児院

保育主任 得能 三志郎



験、掃除等の経験が出来るように支援を考えています。また、一番大事なお金の管理については、自立に向けたより有効な支援となるよう配慮していきたいと考えています。

私が、以前担当していた児童が専門学校を卒業し、国家資格に合格をしたと3月の終わりに実母と一緒に挨拶に来てくれました。高校生のおかげから目標としていた職に就き、夢を叶えた児童を誇らしく思いました。私が、児童養護施設を希望して働いている理由の一つに子どもの成長を長期間傍で支援できるということがあります。今回挨拶に来てくれた児童を見てさらに、これからもその子どもが幸せになれる道筋を子ども自身と一緒に考え支えていきたいと思っています。

今年度より、保育主任として働かせていただくことになりました。

趣味は、半年前に原付バイクを購入し整備をしたが、また最近ではゴルフも始めましたがなかなか真つ直ぐに飛んでくれないことに面白さを感じています。

さて、私は栄光園に入職して早20年、乳児院に配属されてからは、13年目になります。私が乳児院に配属になった当時、子どもの養育は、管理的で集団を重視した養育体制でした。そこから徐々に子どもたちに寄り

添い、家庭に近い小規模化が進んだことにより、より一層子どもたちと向き合った養育になっていきます。

これまで、これからの、ひとえに入職以来ご指導いただきました諸先輩方をはじめとした皆様方のご指導、ご支援の賜物であると心より感謝申し上げます。これまでの仕事で培ってまいりました経験を活かし、広い視野に立って現場の職員と共に歩んでまいりたいと思います。

今後、建て替えと共に乳児院から乳幼児総合支援センターへと機能転換し、多機能化、高機能化し、さらに地域に開かれた施設、また頼られる施設を目指して、新しい取り組みも含め職員一丸となって頑張っていきます。

すべては、「子どもたちの最善の利益」が一番に置き、施設長はじめ、職員と共に歩んでいきたいです。

まだまだ至らぬ点も多いかと思いますが、拜命させていただいた責任をしっかりと果たせるよう邁進する所存です。今後ともより一層のご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

栄光園の桜が満開となり、花の便りが聞かれる季節となりました。

新型コロナウイルスは、なかなか終息せず不安な日々が続いていますが、引き続き職員一丸となって、施設内の消毒や感染予防策の徹底に努めてまいります。

さて、乳児院の子どもたちは、3月の終わりから4月の初めにかけて3人が退所し、1人が入所しました。

今年度も子どもたちが、安心・安全に暮らせるように、また職員一人ひとりが働きやすく、やりがいを感じられるような施設になれるように頑張っています。

みつつけた!!

日に日に暖かくなり、元気がいっぱい子どもたちと戸外遊びをしています。戸外に出

ると野花在美しく咲き、ダンゴムシやアリ、蝶々といった昆虫も多くみられるようになりました。そんな中で、子どもたちも昆虫に興味を示し、発見や観察をする機会が増えてきました。

一人の子どもがダンゴムシを見つけると、なになになとダンゴムシの周りに集まって「観察会」が始まります。はじめは、丸まっていたダンゴムシが動き出すと、「うわー!動いた」と興奮する子どもたちです。ただ、ずっと持っていて、虫が弱ってしまったり、触って動かなくなってしまうこともあり、触って動かなくなってしまうこともあります。今後は、「やさしく触ろうね」等声掛けをしていきながら、命の大切さも知らせていきたいです。



青山保育所

子どもたちを応援するサポーターとして

主任保育士 二宮 孝介

私が、うさぎ組(0歳児)にお手伝いに入ったことです。園庭にある固定遊具には職員が太鼓橋と呼んでいるアーチ状

に木が取り付けられている部分があつて、うさぎ組のお友だちでもよじ登ることができます。ここで保育士としては、安全に遊べるように側に付きながら、どの部分を援助して、どの部分を見守るかという場面が出てきます。子どもたちは、キッズシップに登ろうとしているときに保育士に見守られていることを確認します。そして、登っているうちに怖くなったり、どうやって登っているかわからなくなったりして不安な表情で保育士を見たり、泣いて助けを求めたりします。そうしたときに、「ここまで頑張っているか(お手伝いするから登ってみようか)」と保育士が言葉かけをしたり、援助をしたりすることが適切な援助のタイミングの一つなのではないかと思えます。子ども自身も自分が危険な状況に置かれたということがわかり、助けを求めたことでもどこまで登ったら危ないかということや学んだり、助けを求めたことで一人でもできなかったことができたという満足感を味わったりすることができるとは思いません。

子どもたちは遊びの中で様々なことを学びます。私たち保育士は子どもたちが自分でやってみようという気持ちで満たすために安全な環境を整えたり、その姿を認めて見守ったり、応援したりするサポーターのような存在でありたいと考えています。

だいすきな おえかき

保育士 薬師寺 良

ぱんだ組(1・2歳児)のお友だちは、ある雨の日に室内でお絵描きをしました。好きな色のクレヨンで好きな絵を描いて楽しみました。

描いている時には「これは、あか」「アンパンマン(かいた)」「おはなかわいいね」「せいみてる」と、友だちや保育士のおしゃべりも弾んでいた子どもたちでした。色々イメージしながら描いたり、言葉にし



うさぎ組のお友だちが、節分の行事に参加しました。1月の後半から「おにのパンツ」の絵本を見た後、歌を歌ったりしてきていたので、つのがあつて赤いのは鬼...というの何となくわかっていたと思うのですが、当日園に来た鬼の姿を見て、保育士の後ろに隠れたり、保育士の膝の上で呆然と見ていたり、保育士が変装した鬼の迫力には、驚いたようでした。今年は鬼とそう組のお友だち

たりする姿を見て成長を感じました。これからも色々な活動を通して表現することを楽しんでもらいたいと思います。



おにほそとー! ぶくはうち!!

保育士 渡邊 歩

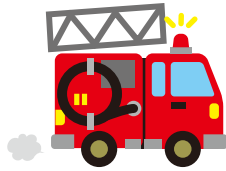
が一緒にダンスをする場面もあったりして最後は仲良くなったので、鬼が山へ帰る時にはタッチをしてバイバイすることができました。また一つ日本の伝統行事を体験することができました。

本物の消防車!

保育士 松本 真人

青山保育所の避難訓練で消防士の方にお越しいただき、防災時の指導を頂きました。その際に本物の消防車が栄光園グラウンドに止まっていて、子どもたちは目を輝かせていました。実際に見たり触ったりしてみると「ホースでつかい!」「このボタンなに?」と大興奮していました。

今回の消防士の方に限らず、様々な仕事に触れてみることで、今まで興味なかったものにも興味を持つようになり、新しい遊びや将来の夢につながっていくのではないかと思います。今後そのような機会を増やしていきます。



聖書の言葉

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

(マタイによる福音書28章20節から)

別府不老町教会伝道師 尾崎 二郎

コロナ禍が続く中、皆様いかがお過ごしでしょうか。2月3月と金曜学校に何えず、私は前号の「栄光園だより」を熟読し、皆様の様子を思い巡らしながらお祈りしています。その紙面は子どもたち、職員や支援者の方々からの、熱い思い溢れる丁寧な文章で満たされています。寄稿者お一人お一人の姿や心が、文字にはなっていない行間から立ち上がってくる様な思いにさせられます。子どもたちと食事を共にし、絵本を読み聞かせ、様々な行事に参加するといった体験の積み重ねによって愛や信頼が形成されていく様子が伝わってきます。特にBBQで食事をほお張ったくんだりを読むと皆さんの間に立ちこめる美味しい香りを味わうことが出来ました。ちなみにイエス様も皆と食事することを大切にし、心ない人々から「見る、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ」と揶揄されることもありました(マタイ11章19節)。

また、様々な体験の積み重ねのうちに語り聞かれる言葉の数々によって、子どもたちが事物に即した言葉を獲得していく恵みを覚えることができました。

私たちは人間は、食物だけによるのではなく、語り聞かれる言葉の一つ一つによって生かされています。私たちは、発する言葉の一つ一つに豊かな思いを込め、愛の絆を育み、人の成長を促すことに用いることができます。

聖書の「言葉」に入りましょう。不老町教会から贈られたアドベントカレンダーには25名の扉があって、その中に25名の方々が選んだイエス様の言葉が隠されています。そうして一日一日新しい扉が開かれ、イエス様の言葉が聞くことによって、私たちはまた、新しい一日を歩み出していきます。

今日掲げました「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」というイエス様の言葉は、最愛の人からささやかれたら、それこそ天にも昇る幸せに包まれることでしょう。

また、前号で紹介下さった「門をたたきなさい。そうすれば、開かれる(マタイ7章7節)」というみ言葉は、罪悪感に縛られ、何かを始められないでいる私たちの背中を押して新たな目標に挑戦する活力を下さることでしょう。

イエス様は、み言葉によって死の先にも新たな道が続いていることを私たちに日々示して下さいます。

野口保育所

主任保育士 末吉 佳奈

新しい年度が始まりました。昨年は、コロナウイルス感染症拡大により色々な行事を中止・縮小せざるを得ないこともあり、大変な事も沢山ありました。主任保育士になり初めはわからないことも多く、先生方から日々助けてもらいながら戸惑い反省をしながらの2年間でした。子どもたちとの会話や笑顔、保護者の方とのちよつとした会話に助けてもらったことを覚えていきます。今年度は、3年目になります。野口保育所には、「子どもにとって毎日が楽しい保育」「食育を通して楽しく食事をする保育」「保護者が安心して預けられる保育」「地域との交流を大切にす保育」という保育目標があります。その目標を達成するために子ども一人ひとりに寄り添い楽しく笑顔で過ごせるよう、今まで以上に自分から子どもたちやお家の方とコミュニケーションをとりながら、職員間での連携を大切に資質向上を目指し、お家の方に安心して預けていただけるよう私自身も笑顔を忘れず頑張っていきたいと思ひます。今後まだ続くコロナウイルスにも留意しながら保育園内での行事や食育活動などを通して子どもたちとの思い出をたくさん作っていききたいです。

まめまき

2月3日節分の豆まきを行いました。今年度は、遊びのコーナーで遊んだり、児童養護施設職員にも鬼のお手伝いをお願いして鬼が4体も登場し、泣いてしまいうちやにこいで豆まきをする子もいました。「鬼は〜そ

と！福は〜うち〜」と豆をたくさん投げ、最後は、5歳児が金の豆を投げ鬼を退治してくれ、福の神がヒイラギとイワシをくれました。今年も体の中にいる鬼をみんな退治することが出来ました。



ひなまつり会

3月3日ひなまつり会をしました。ひなまつりの話を聞きながら〇×クイズをしたり、各クラスが作ったひな人形を紹介しました。女の子が可愛い衣装を着て踊りを披露してくれました。



お別れ会

今年のお別れ会は、卒園する子どもたちが前でインタビューに答えた後、お家で撮った小さい頃の写真をお借りして紹介しました。この日の給食は、みんなで給食の先生が作ってくれたお弁当を園庭で食べ良い思い出になったようでした。



お別れ遠足

1年間一緒に過ごしたお友だちや保育士と一緒に別れ遠足に行きました。公園や消防車見学、グロウバルタワーに登ったりと各クラス楽しみ、お家の人が作ってくれたお弁当を嬉しそうに食べていました。



卒園式

3月26日(土)にコロナ感染を考慮する中、コミュニケーションセンターにて無事に令和3年度の野口保育所の卒園式を行うことが出来ました。卒園した16名の子どもたちが幼稚園・小学校に行っても元気に頑張ること



を願って、応援したいと思います。

今年度も職員一同身を引き締め、資質向上を目指し子どもたちが安全で楽しい保育が出来るようにしていきたいと思ひます。今年度もよろしくお願ひ致します。

野口保育所 職員一同

地域交流事業 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

2022年度「集いの場くるみ」は、4年目を迎えます。

2年目から新型コロナウイルスの感染が広がり、思うような活動ができない状況が続いておりましたが、今だからこそ開催可能な活動をやつていこうと毎回恵を絞りながら活動を続けてまいりました。もちろん感染拡大がひどい状況の場合は、お休みをしましたが、2021年度は、7回の活動を行うことができました。皆様のご協力に感謝いたします。

また、2021年度中学生のボランティアが活動を支える側として参加してくるようになり、回を重ねることに慣れてきて「くるみ」のスタッフとしてほかの大人と一緒に活動を支えてくれています。今後も、だれもがくるみの活動に安心して関わられるようにしていきたいと思ひます。

さて、2022年度は、これまで望ましい経験活動や、季節のイベントを主な活動としてやつてまいりましたが、今年度は、子どもたちにボランティア活動を体験してもらいたいと思ひます。今後は、子どもたちが少しずつ主体的に活動に関わってもら



お花見コンサート

3月27日、昨年に引き続きお花見コンサートを行いました。

今回は、ムーさん(斎藤さん)、ハナミズキさん、スウィンジーさんの3組のアーティストさんが出演してくださいました。

第一部では、子どもたちの好きな曲を選んで演奏してくださいました。パプリカ、サザエさん、炎などの曲が心に残ったとのこと意見をいただきました。

えるよう配慮して参りたいと考えております。

地域の中で様々な経験を積み、地域の方々の温かさを体験し、地域の心地よさを感じてほしいと思っております。子どもたちと地域の方々が関わる一つのきっかけとなり、子どもたちが、地域の中でのびのびと安心して過ごすことができるようになつてほしいと願っております。

誰も置き去りにしない温かい社会の構築を目指し今後も歩みを進めてまいりたいと考えております。皆様のご支援のほどよろしくお願致します。

また、第2部の大人の方々向けでは、懐かしい昭和の頃の曲を演奏してくださいました。そして最後は、今回のコンサートの思い出にしてほしいと準備して下さった曲「花」のマスク歌唱をして終わりました。

今回、アーティストさん自ら子どもたちや地域の大人のために歌詞カードを作ってくださいたり、新中学生の子どもたちに「グイヤーネーム」のプレゼントをいただいたりとお心づかいをいただきました。ありがとうございました。

子どもたちのいい思い出となることでしょう。



3月の集いの場くるみは、お花見コンサートの後、子どもたちの大好きなドッジボールをして終わりました。高学年の子どもたちは、ドッジボール、低学年の子どもたちは、転がしドッジボールをしました。

最後のアンケートの中にもありましたが、子どもたちが、体を動かして自由に遊べる時間が子どもたちにとって一番楽しい時間のようなようです。

また4月から新しい年度が始まります。2022年度くるみの活動が、子どもたちにとって有意義なものとなるよう、くるみの場が、居心地のいい場所となるよう、スタッフみんなで意見を出しあい考えていきたいと思っております。ご意見ご要望などありましたらお気軽にお知らせください。参考にさせていただきます。と思っております。どうぞよろしくお願致します。

グレースホームの集い

栄光園を巣立った卒園生、栄光園を支援して下さる皆様、そして、ここで生活している子どもたちや職員の集いの場として、「バーベキューの夕べ」を例年8月に行っていました。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の状況下で中止とさせていただきますが、今年度は、**8月21日(日)17時**より園庭にて開催します。ただし、感染状況によっては、日時の変更や中止の可能性もありますのでご了承ください。

事前にお電話をいただければ助かります。もちろん参加費は、無料です。お志等も固く辞退させていただいております。



社会福祉法人 栄光園

2022年1月～3月職員の採用・退職と4月新採用

4月新規就任

〈乳児院〉
安西 恵子(施設長)

4月採用

〈児童養護施設〉
生田 あかり(児童指導員)

〈乳児院〉

宮田 奈美(保育士)
竹之内 菜々未(保育士)

〈青山保育所〉

麻生 瑠希(栄養士)

〈野口保育所〉

河野 早紀(栄養士)

退職

2月付

〈青山保育所〉
畠中 瑞記(保育士)

3月付

〈乳児院〉

江口 敏一(施設長)

〈青山保育所〉

小野 恵理(保育士)
平田 留美子(保育士)
松浦 眞樹子(調理員)

〈野口保育所〉

秋好 裕子(保育士)

4月異動

〈乳児院から青山保育所〉
結城 奈津美(保育士)



栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は、多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となつてい

ることをいつも嬉しく思います。児童養護施設の子どものための進学等を重点的に支援する目的で始めた『自立進学資金(栄光園ファミリークラブ)』の枠は、上級学校への進学により社会で活躍できる領域を格段に広げる重要なアフターケアだと考えております。現在、当園でも中高生が児童の7割を占めるようになりました。どうか子どもたちの未来にお力をお貸しく下さい。よろしくお願いいたします。

栄光園をお支えいただいております皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお願いいたします。

【2022年1月1日～2022年3月31日(ホウ)】

賛助金

- 安部道人様 大分市
- 岩切義和様 大分市
- 岩田哲也様 大分市
- 上野貢子様 大分市
- 小郷晶子様 別府市
- 木村洋子様 別府市
- 立花旦子様 大分市
- 田原明紀様 白杵市
- 田原陽子様 白杵市
- 平野八郎・紀美代様 別府市
- 帆足和生様 別府市
- 松本常圃様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市

一般寄付

- 愛隣幼稚園様 大分市
- いろは商事(株)様 別府市

- 福本陽子様 姫路市
- 別府教会様 別府市
- 小手川裕市様 別府市
- 真愛幼稚園様 別府市
- 匿名様
- 匿名様
- 長野哲也様 豊後大野市
- 日本基督教団杵築教会様 杵築市
- 日本基督教団福岡中部教会様 福岡市
- 日本基督教団門司大理想教会様 北九州市
- 豊和銀行従業員組合様 大分市
- (株)ムラセ運輸代表取締役村瀬久美子様 大分市
- 日本キリスト教社会事業同盟様 東京都

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 岡口文明様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- 堤峰子様 国東市
- 平川順子様 別府市
- 別府野口教会様 別府市

特別物品寄付

- ハンドクリン消毒ジェル アサヒグループ食品(株)様
- 衣類 池邊春奈様
- お菓子 江崎博登様
- 冷凍たこ焼き 大鍛冶光子様
- お菓子 たんぼば食堂(こども食堂)大柳恵子様
- マグロ 小川様
- 絵本 小川泉様
- 白菜・水菜・大根 甲斐尚臣様
- 衣類 加藤一陽様
- 絵本 加藤裕子様
- 絵本・カルピス カルピスひな祭りプレゼント事務局様
- わらび餅・卒園生にペン 黒木正道様
- 恵方巻き・ちらしずし 割烹館「幸喜屋」河野智幸・和江様
- 野菜・配達 河野篤様
- パン ココラート様
- ベビー服 齋藤唯様
- 大根 志手良久様
- リースのドメリー・折り鶴 生野裕子様
- 衣類・ひな人形 菅原順子様

- 衣類 添田悠希(まえはら薬局)様
- お菓子 ダイヤモンドグループ(株)様
- ぬいぐるみ (有)寶代産業様
- 大根 高橋恵一様
- ソーメン 武生紘司様
- いちご・練乳 匿名様
- 衣類・おもちゃ 匿名様
- パン 友永バン屋様
- 衣類・ミルク 長野康範様
- みかん 中山正春様
- レモン・キュウイ・カレンダー・幼虫・菜の花・大根 友永バン屋様
- (株)九州錦運輸 二宮洋典様
- 鉛筆 二宮綾子様
- 衣類 パッケージプラザ都留様
- 鉛筆 菅 兵左衛門様
- 箸 おもちゃ・衣類 平井翔大様
- 小物入れ 福本陽子様
- ネーブル 里の駅ふるさと市場 木付弘子様
- スィートスプリング(みかん) むぎの会様
- ミルク (株)明治サステナビリティ推進部様
- ぬいぐるみ・衣類 山田平司様
- 室内遊具・ゴミ箱 山本宣雄様
- 衣類 山本恵美子様
- お菓子 ユーコーラッキーウエスト上ヶ浜店様
- パン パンパース 前原理佳様
- みかん 青木由紀年様
- 兎びな 門司一徹様
- 衣類・お菓子・DVD 福本陽子様
- 入学祝 別府中央ライオンズクラブ様
- 入学祝 明石文昭堂様
- かきかた鉛筆 合澤文化堂様
- 衣類 都甲春奈様

招待・奉仕

- 書道 荒金節子様
- ピアノレッスン 奥山靖子様
- 金曜学校 吉武二郎様
- ハンドマッサージ ハンドボード様
- 集いの場くるみボランティア 平川順子様
- 〃 齋藤正治様
- 〃 ハナミズキ(田中真子・小田原千恵子)様
- 〃 スウインジイ(平野俊安・渡邊由子)様

郵便局での振込は左記までお願い致します。
 □座名義 社会福祉法人 栄光園
 □座番号 0193002120748

賛助会員募集

年会費、一〇千円、但し、何口でも、分割可。
 ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。
 賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌『栄光園だより』を送付させていただきます。



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
 tel.0977-23-2827
 fax.0977-23-7520
 mail eikoen@live.jp

編集後記

海外では、ロシアのウクライナ侵攻、ジェノサイド、国内では、大きな地震など様々な悲しい出来事が起きています。穏やかな日常の有難さを痛感する今日この頃です。21世紀は、人類の文明も進み戦争のない平和な時代になってくれるものとはばかり思っております。ウクライナ侵攻の報道を観ているとまるで20世紀に逆戻りしたような錯覚に陥りそうになります。戦争への布石は、長い年月をかけて教育の中で行われてきているように感じています。どのような教育を受けられるかで考え方や人生観にまで大きな影響を及ぼすでしょう。理事長の「福祉ニースの源流を考える」の中にも触れられていたように、戦争のない平和な世界を作るためには、どのような教育をしていくべきなのでしょう。今後しっかりと考えていかなければならない問題となるのではないかと考えます。私たち人類に課せられた課題だと思います。(原田)